

< 通信発行の想い >

2000年5月1日に、クリニックふれあい早稲田として産声をあげた医療法人財団アカシア会は、早いもので10年の月日を数えました。「時代と地域の要請にこたえる」「その人らしい生活や人生を多面的にとらえる支援」を大切な視点にして、外来医療、在宅医療、認知症グループ、地域密着型小規模多機能、認知症ディサービス、ケアマネ事業、障がい者地域活動支援、障がい者相談支援へと広がってきています。

「アカシア通信」は、様々な事業の展開の中で職員間の交流や、東都協議会の仲間にアカシア会の活動を知ってもらう。また、友の会、地域の方々や関連事業所、関係機関にも読んで頂き、時には励ましを、時にはアドバイスや叱咤激励をいただけるような、そんな発信をしようという想いから発行する事になりました。

目標は、2ヶ月に1回のペースで発行したいと思います。“**継続は力なり**”を合言葉にしながら…。

★心に残っているあのことこのこと◆

達人に ただただ感銘

クリニックふれあい早稲田 院長;大場敏明



早稲田にある3列の桜街道、満開になるのが3月下旬。4月に入ると花吹雪が舞い、ほどなく新緑のアーケードになる。そして薫風を浴びながら、往診車で在宅介護の舞台へと移動する時、あたかも舞台の袖を通る歌舞伎役者の気分になる。

昔「〇〇小町」と呼ばれていた端正なお顔のEさん。寢床に正座して丁寧に迎えてくださる。介護されている娘さんの名前を時々しか言えない重度のアルツハイマーの方。お庭に咲き誇るピンクのバラを窓越しに見て「あの花はなんでしたっけ?」と私。Eさんはニコニコして「何でしたっけネ…」とオウム返し。「父が、このバラの木を植えてね、自分がみたかったのね」と、娘さんが話を継ぐ。そう3年前の冬、退院直後に往診させて頂くが、翌日に急変して亡くなられた。88歳の大往生。その翌年からEさんの往診に伺っている。その年にお兄さんが急死なさった。さらに14歳のインスリン治療犬が死亡し、次の年に17歳の母犬が続き、今年には3匹目の犬が大往生。皆、娘さんが看取られた。



多忙な中でも万全な介護で、それぞれの天寿をまっとうさせた。まさに介護の達人である。急がしくても、部屋の花を欠かしたことがなく、庭でもバラを丹精に育て綺麗に咲かせる。その達人ぶりに、ただ感銘するのみである。

<素敵なチューリップとバラの絵は、辻玲子さんの作品です>

< 私たちの事業所 >

地域密着型小規模多機能ふれあいの家;寺崎 織絵

食欲とパワー満載の家族“ふれあいの家”

我が家では、毎日利用者さんと昼食を作ります。今回はその一部をご紹介します! ふれあいの家、ある日の昼食、の巻。全員で昼食のメニューを考えて…「カレーうどん」となりました。そこで、うどん打ち名人が腕をふるいます! そうなんです。うどんから手作りです。メニューだって利用者さんが書きちゃいます。

まずはうどん粉に水とお塩を混ぜて～丸めて寝かせた後麺棒で生地を伸ばし…慣れた包丁さばきで均等に素早く麺にしていきます。この間スタッフもちょこちょこ手伝わせてもらうのですが、ダメだよそれじゃ～とダメ出しをくらいすぐ退散。スタッフ、ただその手際に見とれるだけ。

そしてカレーうどんの完成!! 青菜のおひたしも付けました。



それ以外には・・・蟹あんかけチャーハン まぐろ山かけ丼に煮物～豆腐ステーキのネギあんかけにサツマイモ煮、酢の物などなど紹介しきれないのですが、とにかくその辺の定食屋には負けないラインナップ！利用者の皆さんがこれまで培ってきた力を十分に発揮してもらっている作業の一つです。

そして利用者さん、職員と一緒にテーブルを囲んで昼食です。

皆で作ったお昼ご飯、味も格別で食事中も笑いが絶えません。1日の利用の中でも同じ楽しい時間を共有する大切な時間です。

今後も利用者さんと食事を「決め」「買い物し」「作り」「食べる」という過程を大事にしていきたいです。(ちなみに「後片づけ」もあります) 食欲とパワー満載の「ふれあいの家」家族です。



共同支援

高次脳機能障害の山口さんの支援を通しての想い

三郷市障害福祉相談支援センターパティオ；山田一三



みさと健和病院の放射線室一角で、今日も山口創さんは就労に向けての実習生として黙々と作業を続けています。時には胃レントゲンの時に下剤のネーム貼りだったり、健康診断の案内状の袋詰めだったり。私は、その姿を眺めながら今までの関わりや、今後の事について脳裏を駆け巡りました。

山口さんは、健和病院のレントゲン技師でしたが、コンビニへ買物に行った時に交通事故を起こしてしまったのです。一命は取りとめましたが、外傷性くも膜下出血などのため約1年間植物状態が続きました。献身的な家族や医療仲間の支えにより奇跡的に回復し、受傷から2年後には退院できるまで回復しました。

山口さんは早く退院を望み、高次脳機能障害を支える家族会「ナノ」の後ろ盾があり、医療相談室経由で相談支援センターに繋がりました。退院後の生活を送る上で支援体制が不可欠です。そのため障害認定を受け、支援のプランや体制をバックアップするため障害者自立支援のケアマネージャーとして関わることになったのです。

高次脳機能障害が彼の人生に大きく立ちをはだかったのです。家族にも大きな変化がありました。それは、退院した事を見届けるとお母さんが病気のため亡くなったのです。彼の行く末を案じながら…。

山口さんと関わり2年半の月日が経ちました。未だに私の名前は覚えてくれません。これもこの障害のなせるわざとでもいいでしょうか。そうはいつでも寂しい気持ちになるのは私の正直な気持ちです。新たな気持ちで毎回自己紹介から始めています。個別的な障害特性上、新しい人との関係づくりは大変難しく、記憶が保てなかったり、イライラして怒りっぽかったり。また、自分から何か順序だてて行動することが苦手で、声掛けや行動を起こすための手本が必要です。

日中の生活や活動の場として、障害者活動支援センターパティオを利用していますが、朝はお父さんが送ってきていました。しかし、現在は、一人で自宅から健和病院まで歩いて行きシャトルバスで三郷駅まで来て、そこか

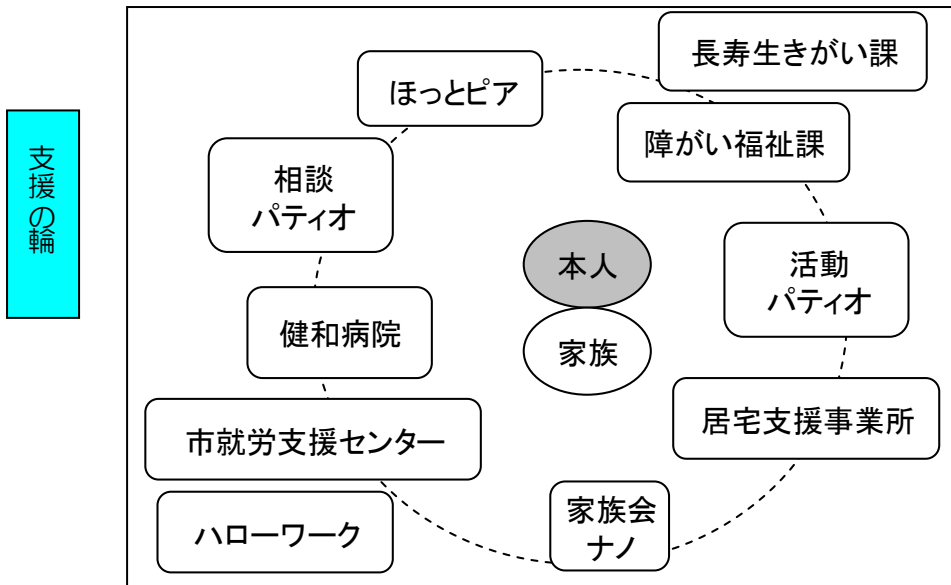
ら路線バスに乗って来ます。一人でここまで来るには紆余曲折と長い道のりがありました。地理的感覚や対人関係についてアセスメントするためにスタッフがマンツーマンで対応をしたりしました。余暇面でもNPO法人ほっとピアのヘルパーが同行する移動支援サービスを利用して、適度な運動を行うために、介護予防運動の元気塾へ参加をさせてもらったり、地域住民向けのフィットネスへ参加をさせてもらったりと障害の枠を超えた連携と活動理解をして頂きました。

高次脳機能障害者の地域課題として、三郷市障害者自立支援協議会にも取り上げられ、専門部会へまで発展しました。三郷市内の病院の医療ソーシャルワーカーなど医療関係者を巻き込んだ市主催定例会の高次脳機能障害者地域支援会議へ進化を遂げました。

山口さんは退職しました。しかし「働きたい」希望を健和病院が受け止め、障害者雇用へ向け動き出しています。現在、職場実習を重ね、病院の仕事を頑張っています。実習中も自宅へ戻れず夜の10時過ぎまで彷徨い歩いたこともあり、GPS機能付の携帯を所持したり、困った時のカードを作成したりと様々な課題はまだ出てくると思っています。

しかし、協議会内の法人連携だけでなく、法人の枠を超えた連携がなされ、山口さんを中心に様々な分野の関係機関との繋がりが増えてきています。そんな山口さんはまだ気づいていないことでしょうか…あなたが人の繋がりを創ってきたことに。まだまだ、始まりの一步ですが、その積み重ねがこれからを開拓する事を信じながら支援していきたいと思います。(氏名の公表は、本人と家族の了解をえています)

<高次脳機能障害とは；頭部外傷、脳血管障害等による脳の損傷の後遺症として、記憶障害、注意障害、遂行機能障害、社会的行動障害などの認知障害が生じ、これに起因して、日常生活・社会生活への適応が困難となる障害である。>



[仲間と 作業風景]

ちょっと いい話



幼子から老いまで 幅広い看護

クリニックふれあい早稲田;前川 千明

こんにちは。クリニックふれあい早稲田です。ここは早稲田団地にある内科・小児科の診療所で、事務と看護師それぞれ4名のアットホームな職場です(忘れていました。医師は2名です。😊)

私たち看護師は、外来診療の補助、往診の介助などをしています。一見、単純そうな仕事内容と思われるかもしれませんが、外来患者さんの問診、電話相談の対応、70名にも及ぶ往診コースの管理など多岐にわたります。その他、小児の予防接種や企業検診なども行っているので、スタッフで分担して患者さんの看護や業務に支障がな

いように日々奮闘しています。



今のスタッフは「往診は始めて」「小児科は経験がない」という者が多く、慣れるのが大変でした。往診患者さんがこんなに沢山いるのかと驚き、子供の点滴がどうしても入らず冷や汗をかいたり、予防接種の時には、大騒ぎするので一苦労です。そして、仕事をしていく中で、患者さんや家族と顔見知りになり、子供のお母さんから相談を受けたり、往診の時に患者さんが笑顔をみせてくれます。そして、「ありがとう」の一言が、頑張るエネルギーになります。そして、今日も頑張るぞと心の中で腕まくりをしています。

スタッフは、ピチピチのアラサー・アラフォーで(それ以上の者もおりますが 😊)、子育てや親の介護の経験もあるので微力ながら皆さんの手助けや力になれたらいいなと思っています。地域の方々や患者さんの頼れる看護師になれるように日々努力していきたいと思ひます。

<  time ~私の楽しみ~ >

活動支援センターパティオ;長谷川 明子

レンズから見える素顔



こんにちは。私は障がいのある方が日中通う活動支援センターパティオで働いています。パティオで働くようになってもう3年半になりました。それ以前は研究所で研究員をしていました。全く違う分野で働くようになって、最近ようやく今の仕事に慣れてきたなと思えるようになりました。

私の趣味は大学時代から写真を始めた写真です。大学に入学したとき、将来自分の趣味として楽しめるものを何か身につけたいと思って写真部に入部しました。今は、東京共済の写真サークルに所属しています。毎月一回撮影会があったり、数か月に一回合評会があったりします。最近、谷中や谷根千に行き撮影し東京共済写真サークルの写真展に作品も出すことができました。

一枚目は写真展に出展した「幸せ」というタイトルの写真です。今年1月の谷根千撮影会で撮りました。根津神社で記念撮影するカップルです。とても幸せそうですね。このお二人大学の受験をしたそうです。もしかして合格祈願をしていたのでしょうか。「いいな～。しあわせそうだな～。」と思わず言ってしまうですね(笑)



二枚目は今年の元旦に西新井大師で撮影したものです。光が差しているお坊さんの方は黄色い着ものが浮き上がってきれいです。一方でお祈りしている女性は影になっていて表情が少しだけ伺えます。まるでお坊さんが女性を光の方へ導いているように感じられました。新年に女性は何を願ったのかと想像が広がります。



三枚目は、谷中の撮影の古くて素敵な町を撮影しながら歩いていたら、窓かを撮ろうとしたら、あとから少女が「何してるの～」とい話をしながら写真に収めました。きっとこの2人は仲写真を撮り始めて思うようになったのは、人は人の写真の中の人物にいろいろなストーリーを想像して共感したり、写真っていいですね。



会に行った時のものです。谷中から犬が顔を出していたので写真う感じで現れました。しばらくお良しなんでしょうね。写真が好きなんだということです。



【編集あれや これや】

アカシア会の今年度の方針の一つに通信を発行する事が決まり、編集委員4人の精鋭(?)が、いろいろ話し合いの中で創刊号が誕生しました。産みの苦しみの次には喜びが…。

事業所の活動だけでなく、職員の素顔やお世話になっているスパ―やボランティアで行っている小学校の皆さんにも登場を願おうと思っています。お互いが支えあい、共同してこの地域で生き、暮らしている事を通信が橋渡しの一助になれば本望です。

編集委員(阿部 山田 寺崎 長島)